

米国 広がりを持った製造業の拡大を示唆(14年4月ISM製造業景気指数)

発表日：2014年5月1日（木）

～新規受注、生産の拡大が雇用に波及。インフレ圧力は限定的～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
13/04	50.0	49.7	52.1	50.5	46.5	51.1	53.0	50.0	54.0	55.0
13/05	50.0	49.6	52.5	49.0	49.0	49.7	48.0	49.5	51.0	54.5
13/06	52.5	55.7	55.7	50.0	50.5	50.4	46.5	52.5	54.5	56.0
13/07	54.9	59.1	60.8	55.5	47.0	52.0	45.0	49.0	53.5	57.5
13/08	56.3	63.6	63.0	55.0	47.5	52.4	46.5	54.0	55.5	58.0
13/09	56.0	61.3	61.2	54.8	50.0	52.7	49.5	56.5	52.0	55.0
13/10	56.6	61.3	60.8	54.3	52.5	54.1	51.5	55.5	57.0	55.5
13/11	57.0	63.4	62.4	55.4	50.5	53.3	54.0	52.5	59.5	55.0
13/12	56.5	64.4	61.7	55.8	47.0	53.7	51.5	53.5	55.0	55.0
14/01	51.3	51.2	54.8	52.3	44.0	54.3	48.0	60.5	54.5	53.5
14/02	53.2	54.5	48.2	52.3	52.5	58.5	52.0	60.0	53.5	53.5
14/03	53.7	55.1	55.9	51.1	52.5	54.0	57.5	59.0	55.5	54.5
14/04	54.9	55.1	55.7	54.7	53.0	55.9	55.5	56.5	57.0	58.0

(出所) ISM: the Institute for Supply Management

ISM製造業景気指数 は54.9と前月比1.2% ポイント上昇

14年4月のISM製造業景気指数(季節調整値)は、54.9と市場予想を上回り、前月比+1.2%ポイント上昇した(市場予想中央値54.3、当社予想54.8)。4月は、生産が低下し、新規受注が変わらずとなったものの、ともに拡大を示す水準を維持していることを背景に、出遅れていた雇用が増加した。また、悪天候からの回復の動きを受け、入荷遅延、在庫が上昇した。

自動車関連での需要拡大のほか、海外需要の回復の動き等を背景に、総合指数、新規受注、生産、雇用が拡大縮小の分岐点である50を上回って推移しており、製造業部門は堅調さを維持した。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、生産(前月比▲0.04%ポイント)が押し下げ寄与となった一方、雇用(前月比+0.7%ポイント)、入荷遅延(前月比+0.4%ポイント)、在庫(前月比+0.1%ポイント)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+1.2ポイント上昇した(新規受注、前月比0.0%ポイント)。

活動の拡大した業種は 17業種と増加し、広が りを伴った拡大

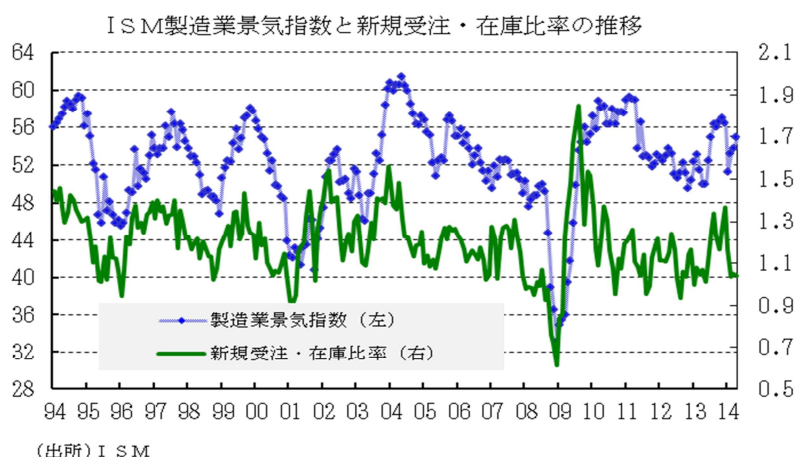
活動の拡大した業種数は、全18業種中17業種(前月14業種)と拡大。多くの業種で拡大しており、広がりを持った業況の改善となっている。拡大した業種(拡大を続けた業種には下線)は、アパレル・皮革・同製品、一次金属、家具・同関連製品、その他製造業、食品・飲料・タバコ、輸送機械、加工金属、一般機械、印刷・同関連支援、プラスチック・ゴム、繊維、化学製品、コンピューター・電子機器、木材製品、石油・石炭、紙製品、電気装置・同機器・同部品。

一方、縮小した業種は、非鉄の1業種(前月4業種)に減少した。

(注) 下線は拡大を続けた業種

ISM製造業景気指数 は緩やかに上昇する見 込み

今後に関しては、米国企業が過剰な在庫や雇用を抱えていないほか、個人消費を中心に緩やかな成長を維持する国内需要のほか、持ち直しの動きを続ける世界経済などに下支えされ、ISM製造業景気指数は緩やかに上昇すると見込まれる。



輸出の拡大持続を示唆

輸出受注DIは、4月に57.0と前月比+1.5%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である50を17ヵ月連続で上回った。世界的な景気回復の動き等を背景に、輸出の拡大持続が示唆されている。

各国の米国向け輸出は 増加基調を維持

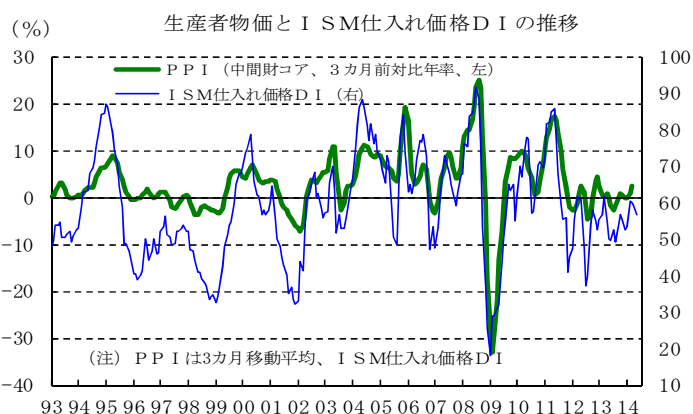
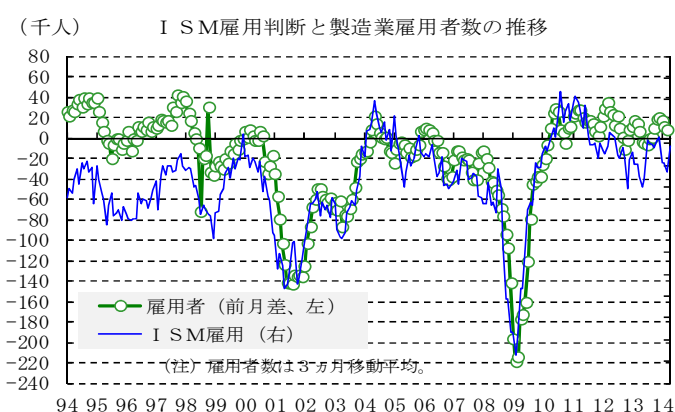
輸入DIは、4月に58.0と前月比+3.5%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である50を上回って比較的高い水準を維持していることから、日本など先進国、新興国の米国向け輸出の拡大持続を示唆している。

雇用DIは4月の製 造業雇用の増加ペー スが小幅加速するこ とを示唆

雇用DIは、4月に54.7と前月比+3.6%ポイント上昇、製造業部門雇用者数（3ヵ月移動平均）の増加ペースの小幅加速を示している。ただし、米国経済や政策の先行き不透明感、価格競争の激化によるコスト削減圧力を背景に、製造業部門での雇用の回復ペースは鈍い状況が続く見込み。

仕入価格DIは川中 でのインフレ圧力が 限定的であることを 示す

仕入価格DIは、エネルギーなどの価格上昇によって、4月に56.5と前月比▲2.5%ポイント低下したうえ、水準が低く、川中でのインフレ圧力は限定的であることを示している。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。